



TITLE:

經濟戰爭ト我貿易上ノ利害

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 經濟戰爭ト我貿易上ノ利害. 經濟論叢 1916, 3(1): 113-119

ISSUE DATE:

1916-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127044>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

第一號

第三卷

論說

資本ノ概念

資本利子稅設定ノ氣運

支那近代ノ戸口ニ就テ(二)

續正貨蓄積論

戸田博士ノ不換紙幣論ヲ讀ミテ

保險本質論(二)

雜錄

經濟雜話第四

聯合諸國輸出入禁制ノ我國ニ及ボス影響ニ就テ

對露輸出品代金ノ支拂決濟ニ就キテ

經濟戰爭ト我貿易上ノ利害

現前ノ大戰爭ニ就テノ感想

乳兒死亡率ト出生率トノ關係

らうれー『みる』學說ノ研究(二)

本多利明ノ經濟說士ノ關シ本庄學士ノ教ヲ乞フ

米國ニ於ケル移民教育機關

補習教育義務ノ可否

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

文學博士 內藤虎次郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 福田 德三

法學士 小島昌太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 河田 嗣郎

文學士 米田庄太郎

文學士 高田 保馬

商學士 大塚金之助

法學博士 福田 德三

法學士 山本美越乃

法學士 財部 靜治

(禁)

轉

(載)

經濟戰爭ト我貿易上ノ利害

河田 嗣 郎

(一) 戰後ノ列國通商關係、特ニハ現今問題トナツテ居ル獨逸兩國ト英佛露伊ノ聯合軍側ノ諸國トノ間ニ起ル可キ經濟戰爭ノ事、之ニ關聯シテ巴里ニ開カレツツアル經濟會議ノ問題等ニ關シテハ、既ニ多數ノ新聞雜誌等ニ意見ノ公ニサレタルモノモ少カラズ、學術專門雜誌上ニ於テモ亦之等ニ關スル學者ノ研究ノ結果ガ公表サレテアル。從テ吾人ハ今更多ク之ニ就イテ論議ヲ試ムルノ必要ヲ認メナイ次第デアルガ、唯茲ニ少シク從來ノ貿易關係ヨリ之ヲ見テ我國ガ聯合軍側ノ諸國ニ對シテ有スル利害關係ト同盟國側ニ對シテ有スルソレトラ事實ノ上ニ於テ比較シ、以テ此戰後ノ大問題ニ對シテ我國ノ取ル可キ態度ヲ定ムルガ上ノ參考資料ニ供シ度イト思フ。勿論ソレハ政治上ノ顧慮ヲ拔キニシタ純粹ナル經濟上然カモ唯ダ數字ノ上ニ表ハレタル貿易上ノ利害ニ關シテノミノコトデアル。

買フ所ハ又凡ソ一億三千萬圓ニ上ボツテ居ルニ拘ラズ獨塊ヨリシテ我國ガ購フ所ハ僅カニ七千二百萬圓ニ過ギズ、前者ハ後者ノ十八割ニ當ツテ居ル。即チ我國ガ獨塊ニ國ヨリ購フ所ハ英一國ヨリ購フ所ノ六割ニシカ當ラナイ。

右ハ戰前ノ狀態デアツテ戰後ノ問題ニ對スル判斷ノ材料トシテハ先ヅ用ユ可キモノデアルガ、試ニ戰時中ノ狀態ニ就イテ見ルト、勿論獨塊トハ輸出共ニ殆ンド全ク取引ノ關係ガ絶ヘテシマイ唯纔カニ獨逸ヨリシテ多少ノ輸入ヲ爲シタルニ過ギヌガ(昨年ノ輸入額五百九十餘萬圓)、聯合軍側ノ諸國ニ對シテハ味方同士タルノ關係上我ヨリノ輸出ノ如キハ英露ニ對シテハ却テ平時ヨリモ増加シテ居リ其他ノ國ニ對シテモ可也多額ノ輸出ガ行ハレテ居ル。又我ニ對スル輸入ニ於テハ其額コソ平時ニ及バザレ尙ホ可也多大ナル輸入ガ行ハレテ居ル次第デアル。試ニ昨年ノ數字ニ就テ之ヲ表ニシテ示シテ見ヤウナラバ即チ左ノ如クデアル。

		輸 出		輸 入	
		英	佛	露	伊
		吉	蘭	西	太
		利	西	亞	利
合 計		六八四九、〇二一	四三三九、六三三	一、三三九、七三三	一、〇二一、八六八
即チ戰時中ナルニモ拘ラズ聯合軍側諸國ハ我國ヨリシテ依然トシテ一億二千五百餘萬圓ノ商品ヲ買ツテ呉レ又我國ニ對シテ六千三百萬圓バカリノ物ヲ賣ツテ呉レテ居ルノデアル。就中特ニ英吉利ハ輸出ニ於テモ輸入ニ於テモ依然トシテ良好ナル得意先タルヲ失ハヌ。試ニ之ヲ英國ノ貿易表ニ照シ見ルモ戰時ニ於ケル彼國ト我國トノ貿易關係ノ頗ル親善ナルヲ立證スルコトガ出來ルノデアツテ、彼國ノ貿易ノ得意先タル諸國中今ヤ我國ハヨホド優良ナル地位ヲ占ムルコトトナツタ。即チ昨年ノ英國貿易ニ於テハ其ノ輸入超過ガ戰前ナル一九一三年(大正二年)ノソレニ對スル増加ノ數額ニ於テハ我國ハ三十七ヶ國中實ニ第六位ヲ占メテ居ル。即チ開戰以來如何ニ我國ヨリ彼國ヘノ輸出ガ彼國ノ取引先タル他國ニ比シテ増加シ來ツタカヲ知ル事ガ出來ル。		五八〇、八三六	三、八〇、九六六	六〇、七三三	三九、八八四
		六二二、八八〇	六二二、八八〇	六二二、八八〇	六二二、八八〇

2) 東洋經濟新報ノ貿易年表ニ據ル(第七三五號)

左ニ之ヲ表示スル。

輸入超過額		兩年比較上ノ増加	
一九一五年	一九一三年		
(一) 北米合衆國	1,252,000	1,007,000	245,000
(二) 印度及錫蘭	2,212,000	1,252,000	960,000
(三) アルゼンチン	2,785,000	1,202,000	1,583,000
(四) 濠太利洲	3,757,000	1,752,000	2,005,000
(五) 加泰陀及ニ	2,757,000	1,752,000	1,005,000
(六) ユーラフ	2,757,000	1,752,000	1,005,000
(七) シンドラント	2,757,000	1,752,000	1,005,000
(八) 日	2,757,000	1,752,000	1,005,000

註一印ノ附キタルハ輸出超過

日英貿易關係ノ戰時中モ斯ク親善ナルハ同盟國タルノ誼ノ上ヨリ云フモ正ニ然ル可キ次第デハアルガ、併シ平時戰時共ニ英國ガ我が貿易上ノ得意先トシテ常ニ歐洲諸國中第一位ニ居リ、特ニ獨逸兩國ニ比シ遙カニ懸絶セル位置ニ在ルコトハ決シテ忘ル可ラザル所デアル。

(三) 然シ戰後ニ於ケル問題トシテ獨逸兩國ト英國以下ノ聯合軍側諸國トノ間ニ經濟戰爭ガ行ハレルモノトシテ其ノ場合ニ於テ我國ノ採ル可キ態度ヲ定ムルガ上ニハ、其ノ考慮ノ根據トシテ唯ダ右ノ如ク輸出入貿易上ノ合計價額ノミヲ上グルダケデハ決シテ十分デナイ。其他多クヲ

要スル考慮ノ基礎ノ中ニ於テモ少クトモ輸出入關係ニ於テ我國ハ双方ノ反對側ノ國々ニ對シテ何ヲ賣リ又如何ナル種類ノ商品ヲ買ヒモテ來リシカト云フ事ニ就テ、即チ貿易ノ内容ニ就テ、見ル所ガナクテハナラス。

我國ヨリ此等諸國ニ賣ル所ノ商品ハ其ノ品種ニ於テ大抵相似タルモノデアリ特ニ其ノ重要商品ニ於テ然ルモノガアル。輸出金額ノ最多ナルモノトシテハ羽二重及ビ銅ヲ大宗トシ其ノ賣込金額ハ英獨逸ニ對シテ戰前即チ大正二年度ニ於テ左表示スガ如クデアツタ。(發達ノ跡ヲ示ス爲メニ明治三十九年度ノ數字ヲ附記シテ置ク)

一九〇六年		一九一三年	
羽二重	8,554,000	9,732,000	1,178,000
銅	7,212,000	7,352,000	140,000
獨逸	1,112,000	1,112,000	0
英國	1,112,000	1,112,000	0
獨逸	1,112,000	1,112,000	0
英國	1,112,000	1,112,000	0
獨逸	1,112,000	1,112,000	0
英國	1,112,000	1,112,000	0
獨逸	1,112,000	1,112,000	0

然ラバ我國ヘ輸入ノ方ハ如何デアアルカト見ルニ英獨二國ニ就テ其ノ重要ナル品目ト價格トヲ上ゲテ見ヤウナラバ、戰前ナル大正二年度ニ於テ

3) The Statist, Feb. 12, 1916
 4) 大藏省大日本貿易年表(大正二年)
 5) Annuaire Financier et Economique du Japon, Treizième Année, 1913.

左表示スガ如クデアツタ。(同ジク明治二十九年ノ數字ヲ附記シテ置ク。)

一九〇六年		一九一三年	
苛性曹達	九七、八八六	一二六、八五九	
曹達灰	六九、一五七	一四四、九六二	
硫酸アムモニウム(粗製)	一五、六五七	四、三六	
羊毛(トツブ)	三、九〇、二二三	六八、四四、六二	
綿イタリانس	二、九六、〇七	三、一七、六九七	
及綿織子類	二、一〇、九六	二、九六、八六〇	
羅紗	一〇、〇一、八四四	二、九六、八六〇	
同(毛綿)	二、九〇、二二三	二、九六、八六〇	
銑鐵	二、五八、八三	四、一七、〇三九	
鐵條	三、七、七〇一	三、六九、七四三	
鐵板	六、七、七四三	八、七、五八七	
鐵筒	一、〇三、八八	一、五三、一四六	
鐵及葉鋼	五、二五、四八	四、五九、〇七五	

即チ英國カラ這入ツテ來ル貨物ノ中デ最モ多クノ金額ヲ占ムルモノハ各種ノ鐵デアルガ、硫酸「アムモニウム」ヤ苛性曹達ヤ曹達灰ノ如キ化學工業品デアツテ然カモ亦工業ノ原料品タルモノガ少カラザル金額ニ上ツテ居ルコトハ餘程注意ス可キ事ニ屬スル。右表ニ示ス所以外ニ諸種ノ機械類ノ輸入ハ其ノ總計ニ於テハ夥シイ金額ニ上ボルノデアツテ左ノ二者ハ就中最モ多額ヲ示

シテ居ル。

〔紡績機械〕……………八六、二二五(大正二年)
〔金屬工及木工機械〕……………一、八四、九六六(同)
右英國ヨリノ輸入品及ビ其ノ價格ニ對シテ獨逸ヨリ輸入サルルモノノ内多額ノ金額ニ上ボルモノ數種ヲ示シテ見ヤウナラバ、即チ左表ノ如クデアル(之レ亦大正二年度ト明治二十九年度トノ數字ヲ比較シテ示シテ置ク。)

一九〇六年		一九一三年	
毛織	一、八三、二八	六、二四、八八	
製紙用パルプ	一、二七、一七六	二、七六、四四	
銑鐵	三、〇〇、五三	四、一〇、八	
鐵條	二、三、二二	六、〇、八〇	
鐵板	八、一、九七四	二、三、三	
鐵筒	五、九、四九	一、七、四、五五	
鐵線	一、二、四、〇〇	一、九、七、〇	
電機	八、四、三	一、三、三、〇	

右表ニ照シテ之ヲ見レバ獨逸ヨリノ輸入モ鐵類ガ頗ル大イナル額ヲ占メテ居ルノデアルガ、彼國ヨリノ輸入ニ於テ注意ス可キ所ハ毛糸ヤ「パルプ」ノ如キ原料品タル可キモノニシテ多額ノ金額ニ上ツテ居ルモノハ此等二三種ニ過ギナクテ、他ハ鐵類ニ就テモ之ヲ知り得ラルルガ如ク

可成原料品トシテノ儘輸入サレズ加工品トシテ輸入サレントスルノ傾向ガ餘程顯著デアルコト之デアル。即チ唯右表ニ顯ハレタル所ダケニ就イテ見ルモ銑鐵ノ如キハ大正二年度ニ於テ英國ヨリノ輸入額ハ四百餘萬圓ニ上ツテ居ルニ拘ラズ獨逸ヨリノ輸入ハ僅カニ其ノ十分一二達スル

ニ過ギザルニ反シテ其ノ加工品タル鐵竿、條、板、筒、管等ニ至ツテハ明治三十九年頃ノ額ノ割合ニ少カリシニ大正二年頃ニハ其額ヤガテ英國ヨリノ輸入額ノ疊ヲ摩セントスルノ勢ヲ呈シ來ツタコト之デアル。猶ホ獨逸ヨリノ輸入品中重キヲ爲ス者ハ醫藥品及ヒ染料タルコト茲ニ絮說スル迄モナイ所デアツテ、其金額ノ比較ニ於テハ英國ヨリノ輸入ハ到底足元ニモ寄り付ケヌ所デアル。試ニ諸種ノ染料中ニ在ツテ最モ金額ノ多キニ上ツテ居ルモノヲ示シテ見ヤウナラバ

（インザゴ）
（アニン）染料
1910(大正二年)
1910(大正二年)

次ニ諸機械類ノ獨逸ヨリノ輸入モ可也盛デアルガ就中獨リ能ク英國ヨリノ輸入額ヲ凌グモノハ發動機電動機アルノミデアツテ其價額大正二年

度ニ於テ英國ヨリノ輸入七拾八萬圓ニ對シ凡ソ其倍額タル百參拾萬圓ニ上ツテ居ル。ケレドモ其餘ノ機械類ハ大抵ハ小機械類タルニ過ギナクテ、紡績機械ノ如キ大ニシテ且精巧ナルモノハヤハリ英古利ヨリノ輸入ニ一任サレタルノ形デアル。

(四) 以上種々ナル比較ニヨリ示サルル所ヨリシテ之ヲ攷フレバ、我國トノ貿易上ノ利害關係ヨリシテ見タル上ニ於テハ英國對獨逸—更ニハ又聯合軍側諸國對獨逸ト云フ取組デハ到底終ニ角力ニハナラス。我國ハ英國及ビ他ノ聯合軍側ノ諸國トハ貿易上頗ル密接ナル關係ヲ有シテ居リ輸出ニ於テ我國ノ得意先タル點ヨリ云フモ、輸入ニ於テ我國ヘノ物資供給ノ關係特ニハ我國ノ工業ガ原料ヲ得ル點ヨリ之ヲ云フモ、英國及ビ其ノ與國ヲ一朝我國ノ敵ニ廻ハスト云フガ如キ事アラバ、ソハ實ニ我國ノ通商貿易ニ取テハ由々數大事デアル。而シテ右示ス所ハ唯ダ英國ニ就テハ其ノ本國トノ關係ヲ見タノミデアツテ其ノ廣大無邊ナル植民地ノ事ハ考慮中ニ入レテ

ナイガ、若シ之ヲ考ノ中ニ入レルト云フ事ニナレバ、對獨塊トノ權衡ハ更ニ益々狂ヒ來ル次第デアツテ、我國ノ製造工業品ノ輸出市場トシテ印度ヤ濠洲ヤ加奈陀ノ有スル意義、并ビニ又我國ノ工業製造ノ原料品(特ニ棉花羊毛ノ如キ)ノ供給地トシテノ印度ヤ濠洲ノ有スル意義ハ實ニ大ナルモノアルヲ思ハナクテハナラヌ。之等ニ就テモ一々數字ノ上ニ於テ之ヲ立證シタイト思フガ餘リニ長文トナルノ恐ガアルカラ其ハ略シテ唯ダ事實ダケヲ述ベテ置ク。

然ルニ今我國ガ獨塊ト敵對狀態ノ下ニ在ルト云フ事ノ爲メニ被ル不利益ト苦痛トハ右述ブル場合ニ比スレバトモ比較ニハナラヌ。我が國產品ノ市場トシテモ又物資ノ供給地トシテモ、此ノ二國トハ勿論仲ノ好イニ超シタ事ハナイガ、サリトテ敵ニ廻シテ苦痛ニ堪ヘヌト云フ程デハナイ。タダ其ノ輸入ノ杜絶シテ頗ル困ルト思ハレルモノハ醫藥品ト染料トアル位ノモノデアアル。其他ノ輸入品ニ至ツテハ多クハ今後正ニ我國ガ國內ニ於テ大ニ發達セシメヤウト欲スル部

類ノ産業ニ屬スル次第デアルカラ、其ノ輸入ノ杜絶スルコトハ我國ノ産業發達ノ將來ノ爲メニハ却テ幸デアルヤモ計ラヌ譯合デアル。

要スルニ政治方面其他ノ事ハ暫ク措テ之ヲ問ハズ唯單純ニ貿易上ノ利害關係ヨリ之ヲ云フモ、聯合軍側ノ諸國ハ我國トハ最モ親密ノ關係ヲ有スルノデアルカラ、此等ノ諸國ガ結束シテ經濟的ニモ亦獨塊ニ對抗シテ行クト云フ事トナル限リニ於テハ、我國タルモノハ依然トシテ此等ノ諸國ト提携シテ行クヨリ外ハナイノデアル。何レニシテモ我國ノ探ル態度ノ如何ハ我が經濟發展ノ將來ニ對シテハ甚大ノ影響ヲ及ボスモノタルヤ明瞭至極ノ事デアレバ、朝野ヲ問ハズ之レコン舉國一致デ以テ十分ナル慎重ノ研究ヲ爲スヲ今日ニ於テ特ニ必要トスルト吾人ハ信スル。

(六月六日稿)